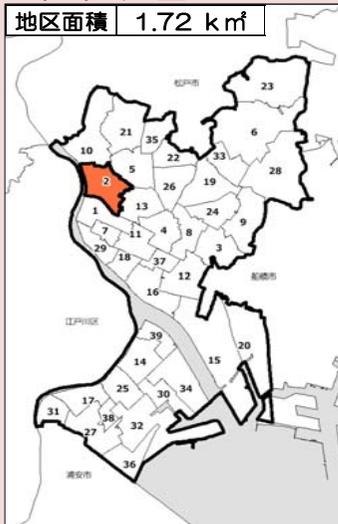


2 真間小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

真間小学校区は市の北西部に位置しています。地区の西側は江戸川に面しており、南側は真間川に面しています。

◆地形・土地利用

地形は、北側が台地、南側が砂州等の低地で構成され、高低差があります。地区の北側は第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が立ち並び、学校施設も多くあります。また、地区の一部は風致地区に指定されていることから、閑静な住宅街が広がる穏やかで落ち着いた環境です。

◆都市基盤

地区の西側を南北にかけて県道1号線（松戸街道）が通っています。地区内には国府台公園等の大きな公園があり、根本排水機場も立地しています。また、地区の南側には京成本線が通り、国府台駅や市川真間駅があります。地区内には、JR市川駅行きの京成バスも通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

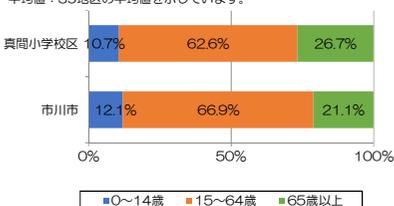
年齢別割合

	真間小学校区	市川市	割合*
人口総数	12,065人	487,621人	2.5%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



◆建物

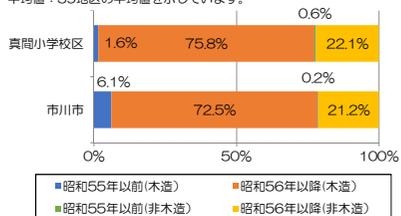
構造別割合

	真間小学校区	市川市	割合*
建物総数	3,662棟	114,958棟	3.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



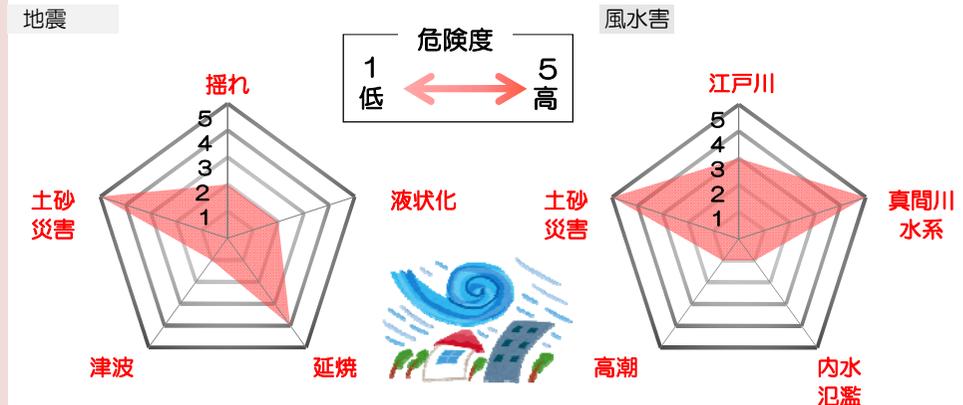
地区の人口は、全地区の平均人口よりやや少ないです。また、市全体と比較すると65歳以上の割合がやや高く、高齢の世代がやや多い地区となっています。

地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

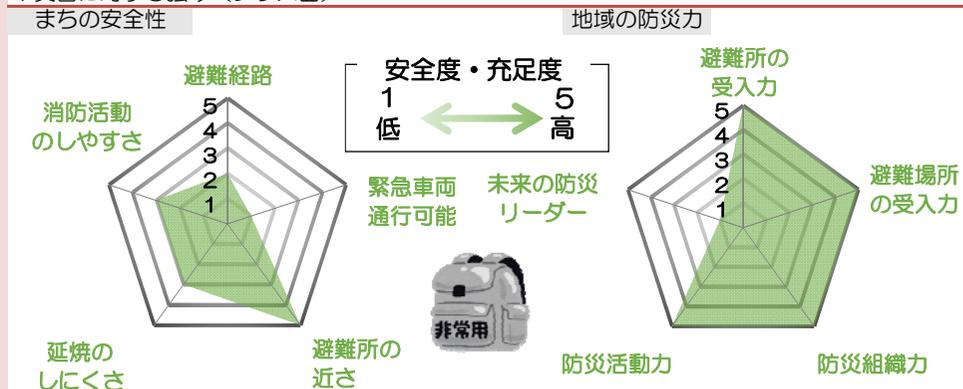
(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現状データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

真間小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、延焼による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、真間川が流れていることから、真間川の氾濫による浸水の危険性が高く、地区内に向け崩れ警戒区域があることから、土砂災害の危険性も高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難所の近さは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能は低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所・避難場所の受入力、防災組織力、防災活動力は高い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
真間小学校	-		
第一中学校	-		
第二中学校	-		
国府台スポーツセンター	-		
県立国府台高校	-		
和洋学園	-		
千葉商科大学	-		
須和田の丘支援学校	○		

◆避難場所

名称
真間小学校
第一中学校
第二中学校
国府台スポーツセンター
県立国府台高校
和洋学園
千葉商科大学
真間山弘法寺
須和田公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	なし		医療救護所	なし
			関連施設	真間交番
				国府台交番
			-	
			-	

要配慮者利用施設(民設)

7



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果(地震・風水害)

◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	真間小学校区	市川市全体
建物被害		
全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	2.1%	3.6%
半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	13.4%	16.0%
焼失棟数の割合	12.2%	4.6%
浸水棟数(津波)の割合	0.0%	0.8%
人的被害		
死者の割合	0.1%	0.1%
負傷者の割合	0.9%	0.9%
避難者の割合	5.7%	7.3%



◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	真間小学校区	市川市全体
建物被害		
浸水棟数(江戸川)の割合	61.9%	52.0%
浸水棟数(真間川)の割合	37.5%	13.6%
浸水棟数(内水)の割合	0.0%	20.5%
浸水棟数(高潮)の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、非木造建物がやや多いこともあり、焼失棟数を除き、建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者、避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、真間川が横断していることから、真間川の氾濫による影響が大きく、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

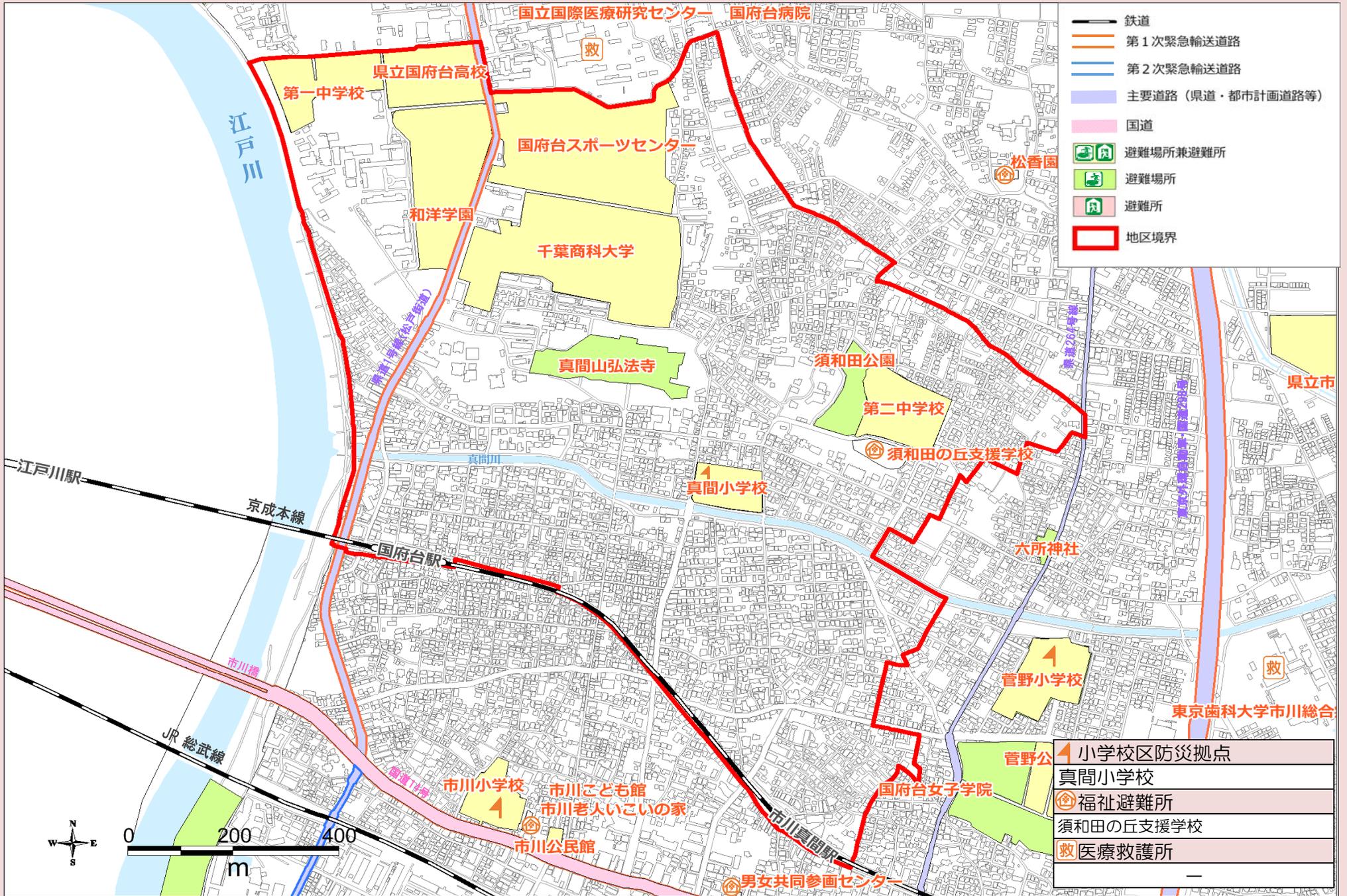
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6弱の揺れが予測され、延焼による危険性が高いことから、延焼対策や初期消火対策が重要です。
風水害	地区の西側に江戸川が面し、近くに真間川が流れていることから、浸水被害の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。また、地区内にけがれ危険区域があることから、土砂災害の恐れがあり、円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルートの確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区内では防災活動力及び防災組織力がともに高い傾向を示していることから、防災活動や組織力の強みを活かし、さらに防災活動に取り組んでいくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

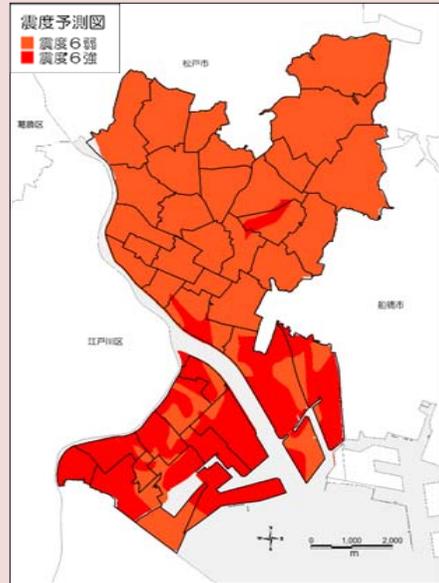
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、避難ルートの確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置をするなど、自宅(家庭)の防災性を向上させることが効果的です。一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるように市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 また、土砂災害の危険性も考えられることから、大雨時の気象情報を確認し、土砂災害の予兆を感じたら、すぐに避難できるよう準備しておきましょう。

(9) 防災マップ



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



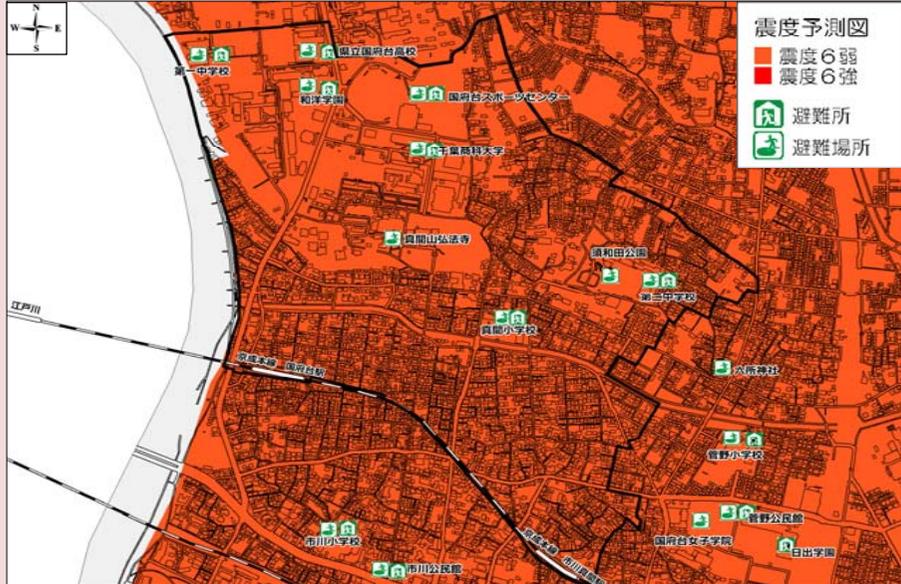
本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

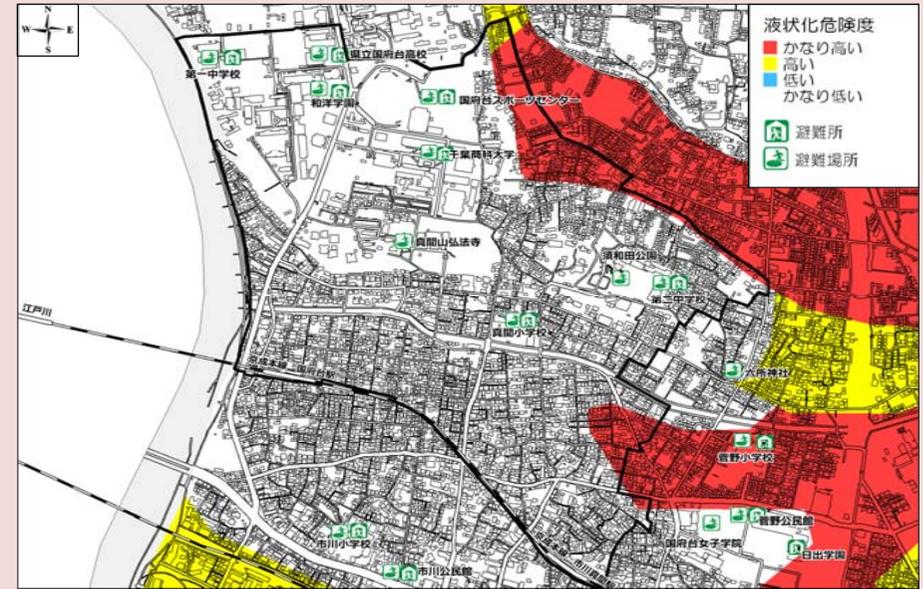


※本結果は市川市地震被害想定結果(平成24年度)に基づいています。

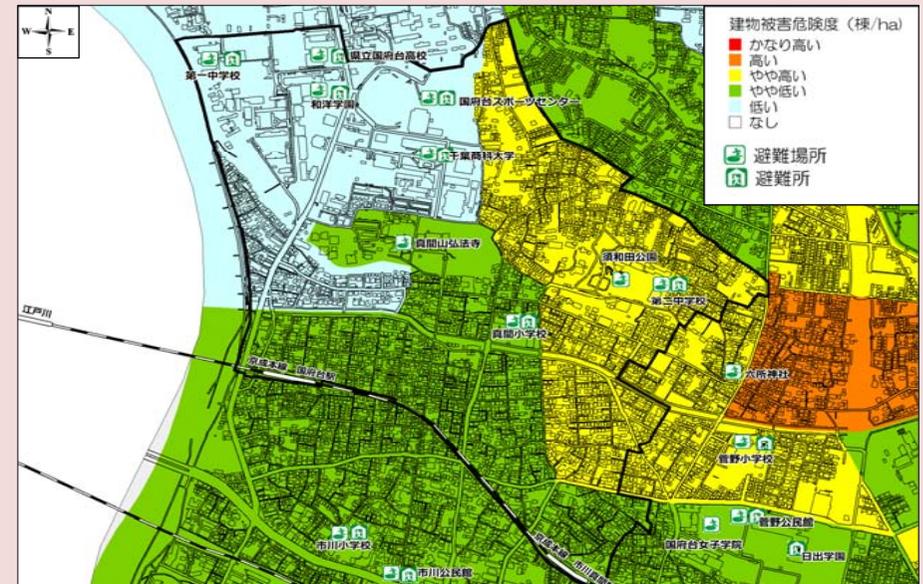
②震度分布図



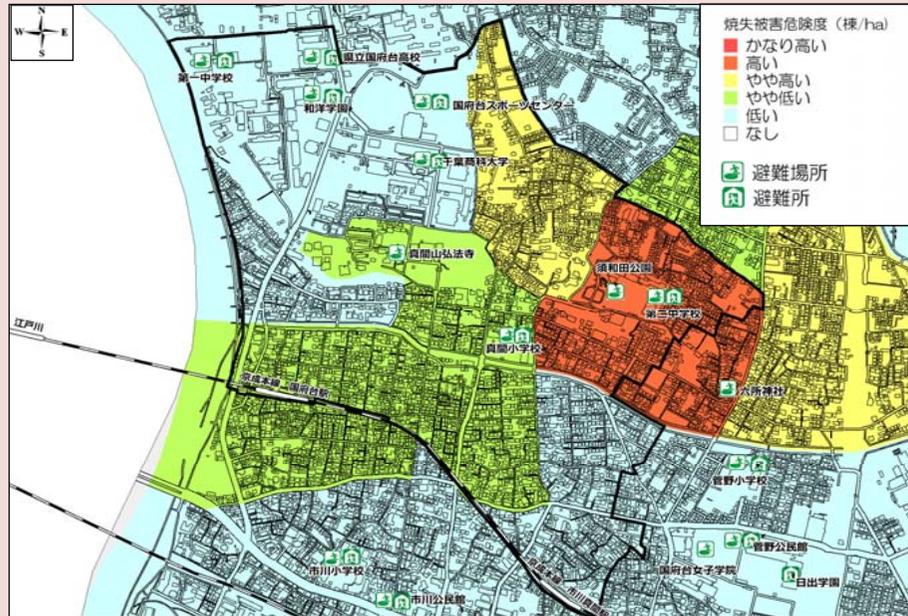
③液状化危険度



④建物被害(揺れ・液状化による被害)

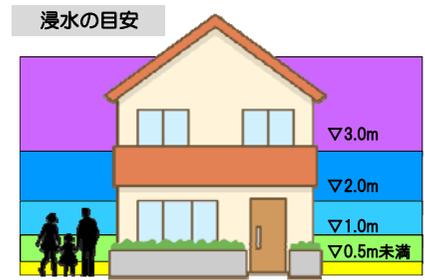


⑤建物被害（延焼による被害）



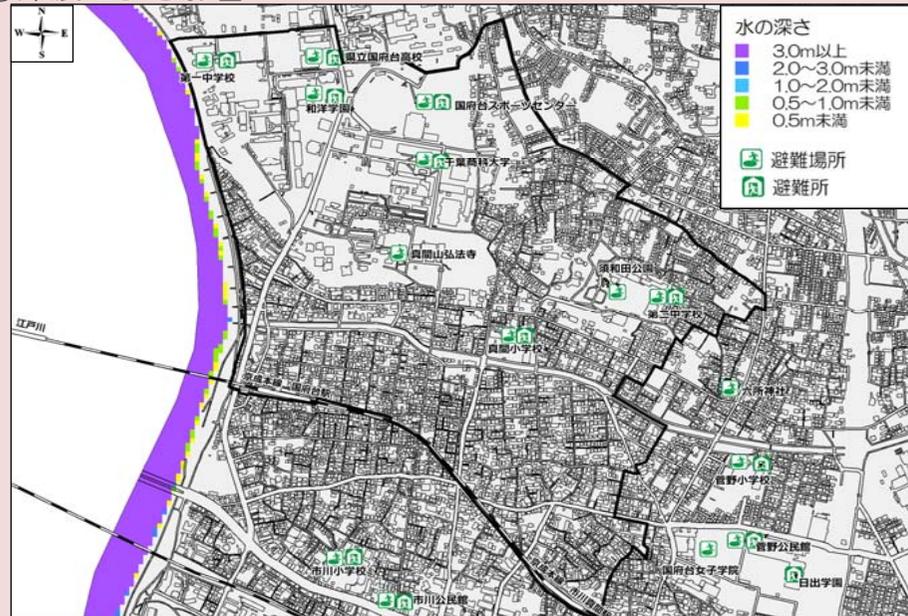
⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。
 災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。
 また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

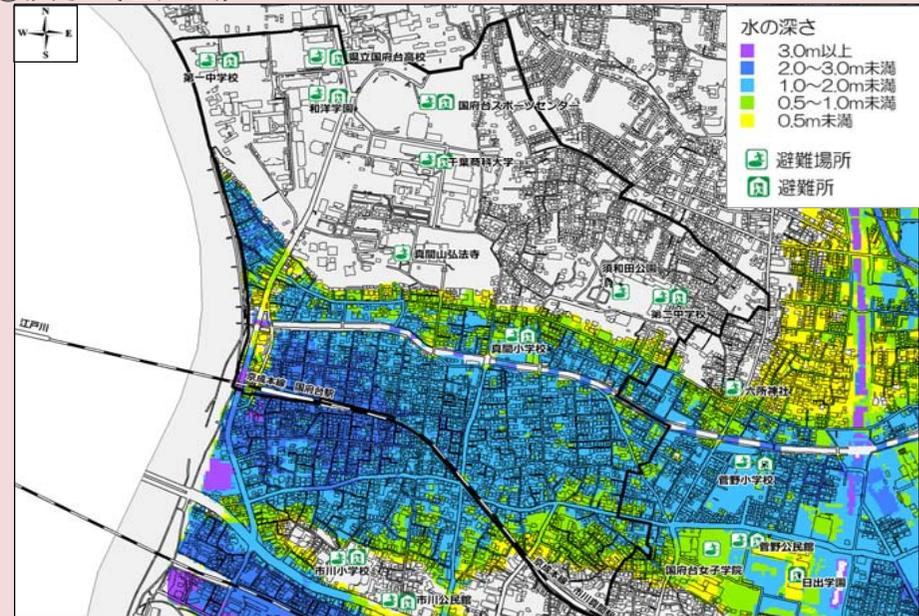
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

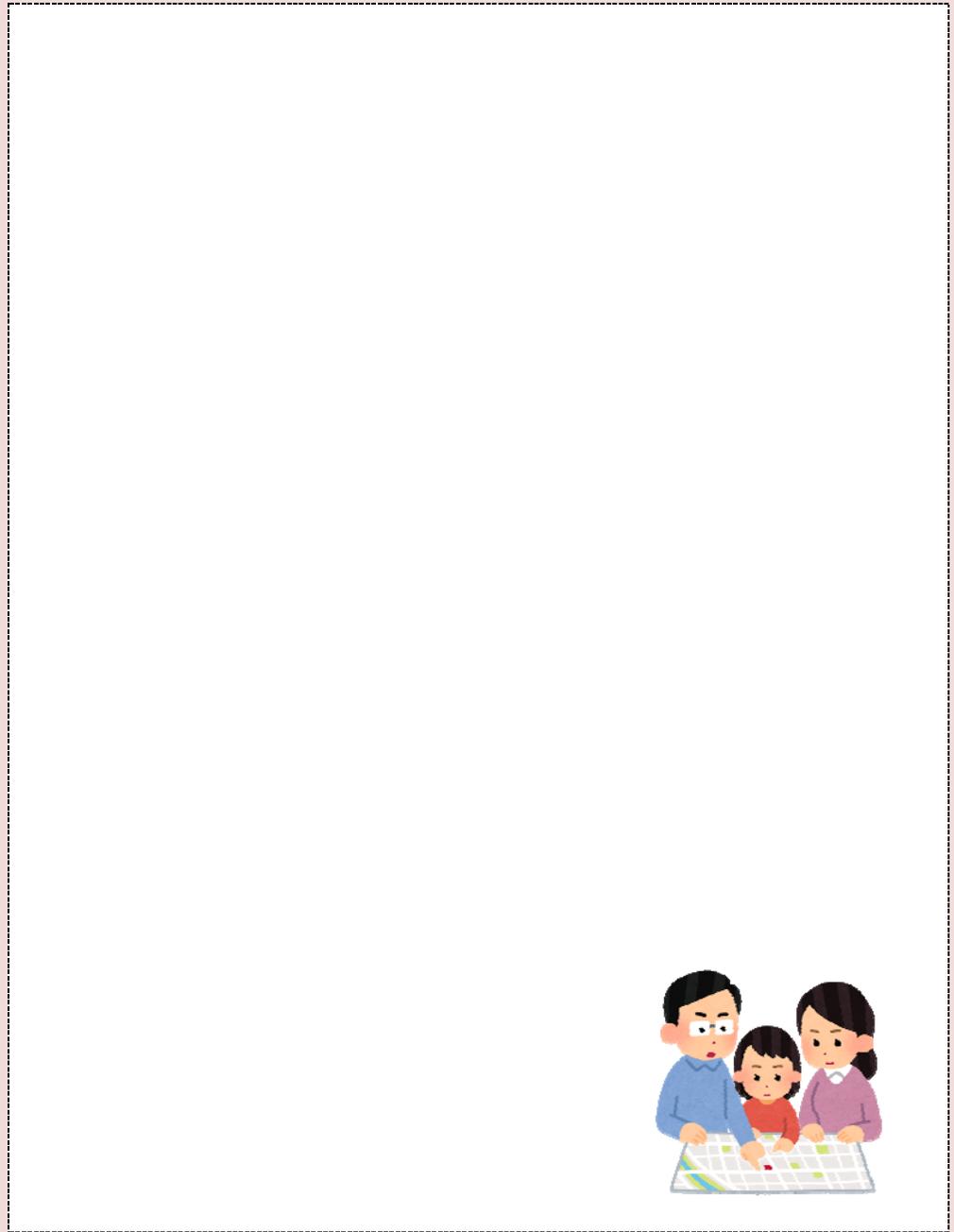
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）

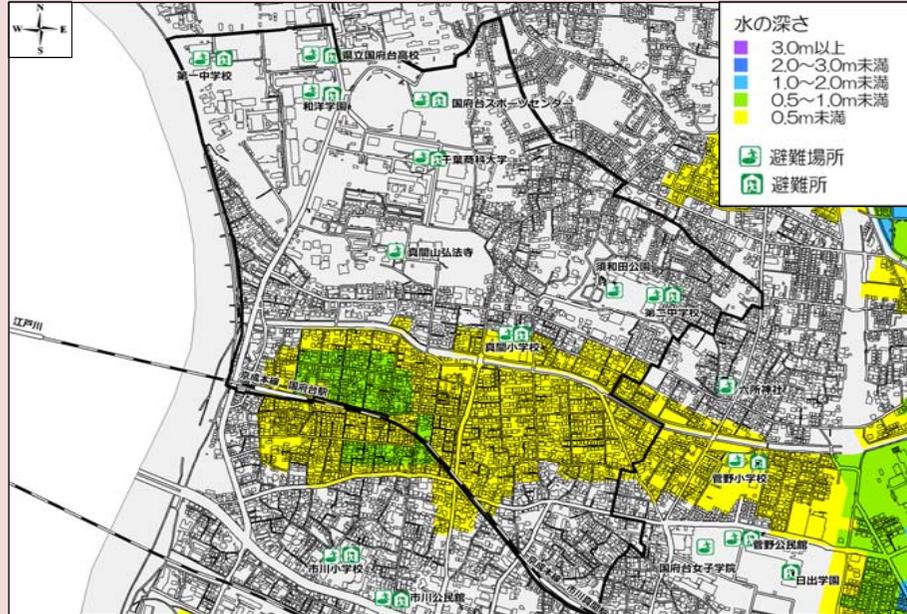


平成29年7月：国土交通省

◆メモ

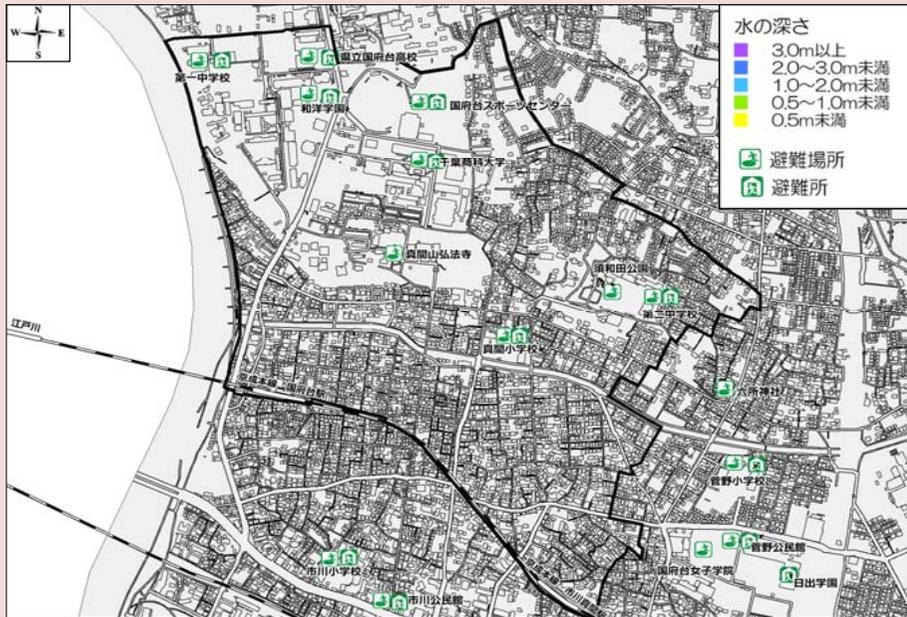


⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省